

# 市議会12月定例会

# 行政報告

市議会12月定例会が11月30日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

## 国勢調査の実施

10月1日を基準日として、19回目となる国勢調査が実施されました。本市でも577の調査区、3万世帯を超える全世帯が対象となる大規模な調査であったため「平成22年国勢調査大館市実施本部」を設置し、調査員383人、指導員54人の態勢で取り組んできました。

これまで大きなトラブルも無く、現在は、調査票の最終チェックを行っていて、県の最終審査を経て2月までには、国から人口及び世帯数の速報値が発表される見込みです。

調査員の皆さんには大変御苦労をお掛けし、改めてその御尽力に感謝申し上げますとともに、市民の皆さんのご協力に厚くお礼申し上げます。

## 雇用情勢

3月に高等学校を卒業予定の生徒のうち、就職希望者は215人で、県外希望者が101人、県内が114人となっています。10月末現在の内定率は77.2%

で、昨年同期を0.8ポイント上回っています。昨年同期を0.8ポイント上回っています。昨年同期を0.8ポイント上回っています。昨年同期を0.8ポイント上回っています。

大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場等は、10月1日現在、指定数は63事業所、従業員数は4339人で、昨年同期と比べ、1事業所、74人の増加となりました。特に、ニプロ株式会社大館工場では、ダイアライザー製造ラインを増設したことで、6月以降、約50人を増員し、さらに来春は70人以上の定期採用を予定していると伺っています。

一方、市では昨年度から県の基金を活用した雇用創出事業を展開し、本年度は「緊急雇用創出臨時対策基金事業」で41事業184人、「ふるさと雇用再生臨時対策基金事業」で9事業26人の雇用を図っています。さらに11事業で21人を雇用するための補正予算案を提出しています。

## シャイニングストリート事業

「大館シャイニングストリート実行委員会」が、平成19年から行っているケヤキ並木の電飾は、総合病院から秋田看護

福祉大学付近までの区間約800mの街路樹と、大館駅ハチ公像前の植栽を20万個のLED電球で彩るもので、東北新幹線全線開業日の12月4日から新年1月8日まで実施されます。

きたこまちで60kg当たり9千円と、昨年より大幅に下落しています。一方、新規需要米は、認定農業者54人、集落営農8組織、その他農家22人が取り組み、作付面積は昨年度の約3倍の97.5haとなりました。



電飾で彩られた大館駅ハチ公像前

## 平成22年の農業

5月中旬から6月上旬にかけての断続的な低温と日照不足に加えて、8月上旬から9月上旬まで最低気温が非常に高い状態が推移したため、水稲のみ数不足など農作物の生育不順が見られました。

水稲は、国が公表した「平成22年産水稲の作付面積及び予想収穫量」によると、作況指数が全県で93、県北で94の「不良」となりました。また、JAあきた北管内の1等米比率は、11月11日現在70.5%で、昨年比マイナス22ポイントと大幅に低下し、本年産米の生産者概算金も、あ

果樹は、ナシが他産地の不作により価格が高値で推移したため、販売額は昨年を上回りました。リンゴは、夜温の高い日が続いたことで黒点病、炭そ病が多発し、早生、中生種とも出荷量が大きく落ち込み、また、晩生種は、11月12日午後、中山、曲田地区で降霜があり主力の「ふじ」に傷がついたことで、品質低下による影響を心配しているところです。

本年の異常気象で、水稲を主体とした農作物が大きく減収となったため、平成23年の営農に必要な資金の確保に向け、県が創設した「秋田県営農維持緊急支援資金」の利子補給のための補正予算案を提出しています。

## 戸別所得補償モデル対策に おける交付金の申請状況

本年(平成22年)4月、自給率向上と水田農業の経営安定を図るため「戸別所得補償モデル対策」がスタートしました。

この対策は、「米戸別所得補償モデル